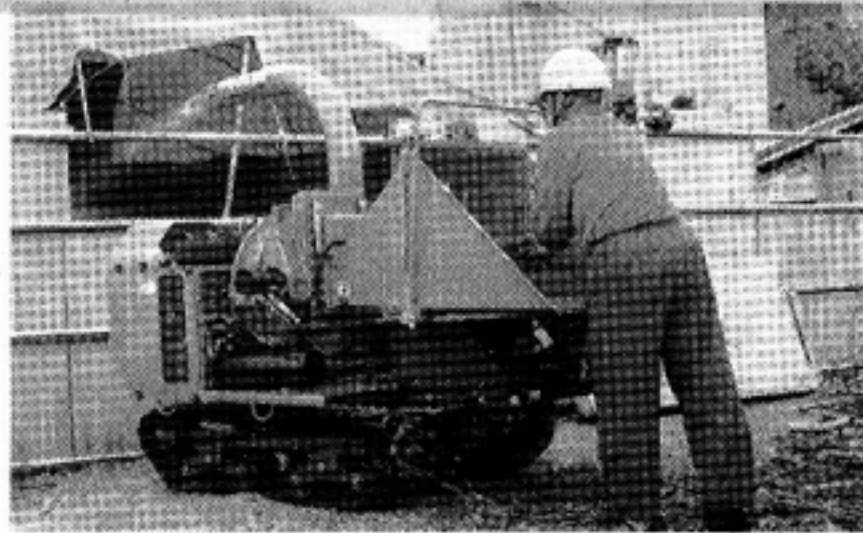


三陽機器のグリーンフレーカー 樹木破碎に広く活躍

自走式とクタマウント式

ほしいチップ作る

三陽機器株式会社（小室幸朗社長・岡山県浅口郡里庄町新庄）発売の樹木破碎機「グリーンフレーカー」が、伐採木や剪定枝の処理・リサイクルに威力を発揮、農林業分野のほか多方面で注目を浴び、受注が急増している。野焼き禁止など環境規制の強化から樹木破碎機の需要が盛り上がっているが、特に同社のグリーンフレーカーは、①自走式とトラクタマウント式があり、作業現場に合ったタイプが選べる②処理チップのサイズを自由に設定でき、用途に応じたチップを作れる③軽量コンパクトで低価格、しかも最大処理径は百五十センチとクラス最大、処理能力も毎時三・〇立方メートルと最速——などの特徴が高い評価を受け、果樹園、造園業、ゴルフ場、林業、土木建設など多分野からの引き合いを呼んでいる。



用途に合わせたチップのサイズが選べるグリーンフレーカー。①は自走式、②はトラクタマウント式



小室社長

野焼き禁止など環境規制が強化されたことにより、果樹農家をはじめ造園業者、林業、ゴルフ場など多くのレジャー施設、土木建設業者、一般企業、自治体が伐採木・剪定枝の処理に困っている。

その対応として、破碎し、チップにする方法が何かと便利だが、対象となる伐採木や剪定枝の太さはさまざまであ

り、チップの再利用を考えた時、チップのサイズにもさまざまな要望がある。

そのため、こうした要望に添うためには、処理能力が高く、併せて用途に応じたサイズのチップに仕上がる樹木破碎機でなければならず、同時に価格面でも求めやすいもの——と諸条件がつく。

こうした条件を満たした新発想の高性能機として注目を集めているのがこの「グリーンフレーカーGFシリーズ」だ。

同社では、フロントローダのトップメーカーとして油圧や電気制御で培ったシステム技術をこの破碎機の開発に投入、トラクタマウント式を昨年七月に、第二弾として自走式を今年五月にそれぞれ発売しているが、いずれも人気はうなぎのぼり。特に、現場で実演作業を行うと、契約率が極めて高いのが特徴だ。

人気の要因の第一は、破碎物の送り装置に油圧駆動方式を採用しているため、送り操作が容易なこと。ワンタッチのフィードレバーで正逆回転・停止が簡単に行える上、エンジンに過負荷がかかると送りローラが自動停止、エンジンの回転数が回復すると自動制御機構により自動再開す

る。また、送りスピードを微調整できることも好評だ。好みの送り速度を選べる油圧式可変送り装置を採用、ダイヤルで毎分〇〜二十五までの微調整速度が設定できる。そのため、キメ細かく好みのチップサイズが選べる。

さらに、破碎装置は耐久性の高い剛構造を採用。破碎方式は二段階破碎で、一次破碎用のチップバー刃で切断し、二次破碎用のシュレッダー刃でさらに細かく破碎する。このため、常に均一なチップが得られることも評価が高い。

その他、①破碎物は樹木だけでなく、木の皮、わら、孟宗竹、雑草、新聞紙、ダンボール、粉殻、糞、椎茸原木、つる草、サイレージ、たばこ残幹など多用途②シューターは三百六十度回転し、排出角度も調節可能。そのためチップを直接トラクタの荷台へ積み込める③投入口は片側に大きく開口でき、チップ受け刃の交換や日常点検などメンテナンスが容易④緊急時の送り装置非常停止スイッチを装備⑤チップバー刃は研磨可能な二面刃。シュレッダー刃は耐磨耗鋼を使用、四面の反転替え刃を使用——などの特徴がある。

また、自走式のGF150は、本体質量が八百五十キログラムのため、ネットトラックによる運搬が可能。しかも低重心のバランス設計により、トラックへの積み降ろしが安全かつ容易に行える。